巻　頭　言

院長　西土井英昭

2019年12月中国武漢市で報告された原因不明の肺炎はCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）と名付けられ，今や全世界を席巻し10月始めの段階で3,500万人以上の感染者，100万人超の死者を出して，今なお日本でも猛威を振るっています．

当院の新型コロナウイルスに対する防疫体制の構築は職員の皆様のおかげで比較的早く構築できました．その主な原動力は２月26日に立ち上げた院内新型コロナウイルス対策会議でした．回を重ねるにつれて組織体制が整い，外来チーム，入院チーム，手術チームが機能し始め，発熱・帰国者・接触者外来が４月13日に立ち上がりました．その後，当院が保有していた富士レビオ社の免疫測定装置（ルミパルス G1200）にウイルスの抗原定量検査試薬が適合することが判明し，７月には中四国で一番早く抗原定量検査を導入することができました．またPCR検査機器も８月には稼働開始，入院患者さんは全例ウイルスチェックすることが可能になりました．しかし新型コロナウイルスの病院経営への影響は想像以上で，患者さんの巣ごもり状態なのか受診控えが起こり外来，入院患者，手術件数ともに減少し，大きな痛手となりました．それでも職員の皆の頑張りでなんとか患者数も回復基調にあり，明るい兆しが見えて参りました．

さて，このような忙しい中，鳥取赤十字病院医学雑誌2020，Vol 29が完成しました．論文を書いてくれた皆様，編集に携わってくれた職員に感謝します．コロナ禍の中で書いた論文ということで，何年か後に思い出すこともあるでしょう．皆さんも是非この１冊を手に取って読んでいただきたいと思います．

2020年11月吉日